

サポセンニュースレター 2022年 雪灯号



生長

まつど市民活動サポートセンター
2018年-2022年の軌跡

p2-3_『サポセンは全力サポートセンターです。』
／データからみるサポセンの動き

p4-7_ サポセンを利用している団体&人の声を聞きました！

p8-9_ 調査プロジェクト報告

p9_ まつど市民活動サポートセンターへの期待

p10-11_ [サポセン事業紹介]
まつどみらいカイギプロジェクト／Let's 体験!! 2022

p11_ コーディネーター紹介

p12_ [スタッフコラム]
市民活動で“コスパの良い暮らし”広がっています



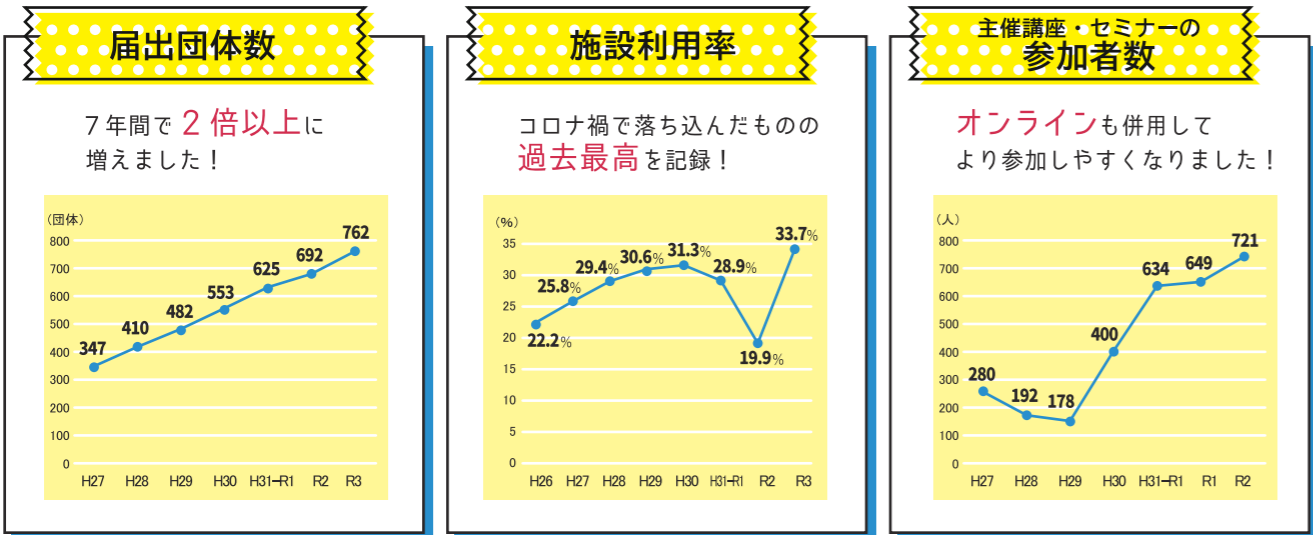
サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まつど市民活動
サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>

直近7年間の取り組みを振り返りました！




主な事業の紹介




まつど地域活躍塾

松戸をより暮らしやすく、魅力的な街にするために、地域で活動に取り組む方・これから始めたい方を応援する塾です。約8か月を通じて、松戸のことを学び、現場に触れる中で、自分の街を楽しむ一歩を見つけていきます。



ボランティア体験講座 Let's体験!!

中学生～20代向けのボランティア体験プログラムです。環境・福祉・子ども・まちづくりなど、普段関わる機会の少ないコミュニティ活動に参加するきっかけの場となっています。



まつどみらいカイギ

自分たちが実現したい、新しい暮らしを生み出す対話イベントです。事前に募集したプレゼンターによる発表の後、自分が気になるテーマを選んでグループごとに語り合います。

サポセンは、 全力サポート センターです。

まつど市民活動サポートセンター(以下、サポセン)では「自分たちの地域をより良くしたい!」という想いをカタチにするために、コーディネーターが全力でお手伝いしています。

NPO・市民活動・町会自治会まで幅広く対応していますので、「何かはじめようかな」と思った時にはサポセンを思い出してください。



場所です！

おすすめの

こんな方に

- 地域で活動を始めたいことがある
- 知りたい情報や活動を紹介してほしい
- 自分に合うボランティア先を探している
- 助成金や活動資金の相談をしたい
- 団体やNPO法人を立ち上げたい

…といったご相談に専門性をもったコーディネーターが随時お応えしています。

[開館時間…月～土：9時～21時、日曜9時～17時 ※毎月第1・3水曜、年末年始(12/29～1/3)は休館日]

サポセンでは
こんなことが
できます！

- 1 チェンジできる場所・活動の拠点として利用する
- 2 何か困ったときにすぐ市民活動の専門家に相談できる
- 3 次の一歩が見つかる講座やイベントに参加する

団体として届出をすると、大小の会議室から運動もできる多目的ホールまで、柔軟な利用ができる施設を予約して使うことができます。

団体やグループを立ち上げたい時やボランティアを始めたい時の情報提供から、法人格の取得や助成金獲得など団体のスキルアップの相談まで幅広く対応しています。

「知る」「参加する」「学ぶ」「つながる」の4つのキーワードで講座やイベントを月に数回実施しています。自分に合った情報や活動を探すためにも、まずは一度ご参加ください。

WHAT'S SAPOSEN?

2004年の開設以降、様々な市民活動の立ち上げ支援を行い、市民・団体・行政・企業をつなぐ個別サポートに取り組んでいます。現在約800団体が登録しており、年間4万人以上が利用している公設民営の施設です。(松戸市の指定管理者制度により「特定非営利活動法人まつどNPO協議会」が運営しています)

サポセンを利用している 団体 & 人の声を聞きました!

サポセンと関わるようになったきっかけや、サポセンとのつながりの中で活動の広がりができたこと、サポセン活用法などを聞きました!

- ▼施設利用団体
- ▼活躍塾[※] 修了生 ※まつど地域活躍塾
- ▼ユース
- ▼地縁団体
- ▼ネットワーク団体運営

なないろのもり

「今しかない親子の時間を楽しもう!」を合言葉にイベントを実施している市民団体。小さな子どもから高齢者まで地域の人たちがつながる居場所にも取り組み、子育てが楽しめる街づくりを目指している。

子育て真っ只中のママ4人が、子ども達の発表の場と親子で一緒に楽しめるイベントを開催したいと考え、サポセンに相談したことがキッカケでスタートした、なないろのもり X'mas Festivalも8年目を迎えました。コロナ禍においても、子ども達の楽しみを失くさない事を第一に、安全に開催できる方法を一緒に考え、オンライン配信など技術的にアドバイスまでしていただきました。これからもよろしくお祈りします。



なないろのもり X'mas Festival

▼施設利用団体

外国人の子どものための勉強会

外国からやってきて、地域の学校に入った子どもたちを主な対象に、真の自立のための日本語・学習支援活動を行い、広く公益に貢献することを目標に活動している。

他の団体はどのように市民活動を行っているのかを知りたく、様々な講座やみらいカイギ、みらいフェスタなどに参加し、サポセンと関わってきました。具体的に以下のようにサポセンを活用しています。

- コーディネーターに相談してキーパーソンや団体とつないでもらう。
- 活躍塾の実地体験や大人のためのボランティア体験(以下、大人ボラ)の参加者がスタッフとなって活躍している。
- 夏休みにはLet's体験!!から高校生・大学生のボランティア体験者を毎年受け入れており、小・中学生の日本語支援に活躍している。
- よろず講座などでクラウドファンディング、NPO会計について学ぶ。
- 伴走支援プログラムを受けたり、団体運営について学び日々の活動に活かしている。

海老名みさ子さん(右): 理事長
東京で日本語教師をしていたが、地元の松戸で困っている外国人小学生がたくさんいることに気づき1996年に団体設立。2003年に法人化。

吉道正夫さん(左): 文化ホール教室リーダー / 活躍塾2期生(2018年)
海外滞在時に言葉で苦労した経験より、来日した子どもの為に何かできないかと、活躍塾受講中に活動始める。



夏休み教室



新松戸教室



文化ホール教室

まつど地域活躍塾つながりの会

活躍塾の修了生や関わったスタッフと共に互いの地域での実践や情報を共有する場として2018年に始まる。2期生が入った2019年より特にSDGsに力を入れている。(SDGs基礎講座を独自で、2021年には松戸市市民活動助成制度を使用し開催している。)

活躍塾には、多様なバックグラウンド・年齢層・専門性を持った人が参加しており、修了生の何割かが毎年当会に入会してきます。それに加え、複数市民活動団体で活動をするメンバーがいることで、色々な情報共有ができ、まちづくりや地域をよくする活動への相乗効果が大きいです。また、サポセンで働くことになったメンバーもあり、イベント・講座など耳よりな情報が共有され、よりサポセンが身近になりました。サポセンと関わったことによってほかの団体とつながり、活動範囲が広がっています。

サポセンは潤滑油的に関わってくれており、市民活動全般の相談に乗ってくれます。センター内にはチラシなどのたくさんの市民活動情報、人との交流があり、メリットが大きいので、活用したほうが良いです!



佐藤孝逸さん(右): 初代会長 / まちづくりキーパーソン養成講座参加者(2017年) / 活躍塾1期生
佐藤秀樹さん(左): 2代目会長 / 活躍塾2期生

サポセンと関わったことで活動範囲が拡大!



SDGsネットワーク会議



定例会の様子



松戸市民向けSDGsフォーラム

平野将人さん

一般社団法人銀座環境会議代表 (市民参加による発電所設置やSDGsセミナーなど、まちづくりや人々の交流につながる環境活動を行う環境保全団体)。途上国開発援助を経て、活躍塾(2期生)を受講、常盤平団地役員など地域活動にも従事。

サポセンと関わるきっかけはよく覚えていません。当たり前のように関わっていますし、団体の環境活動、個人の地域活動、団体スタッフとサポセンスタッフとしての関係、個人同士としての友人関係...がないまぜになっていると思います。そうした関係性の中で、人と人の繋がりはどうも広がっていきまますし、便宜上整理、定義する必要のある局面がないわけではありませんが、長く「外部者として、団体の代表として、地元政府との契約の中で」開発援助に関わった私からすると、その「ないまぜ」の状態にも地域活動の醍醐味があると考えています。そしてそれを可能にしているのは、個々のサポセンスタッフの方々の人間的魅力にあると思っています。



みんなで市民発電所を(一部)作りました!



松戸そらびか発電所第1号



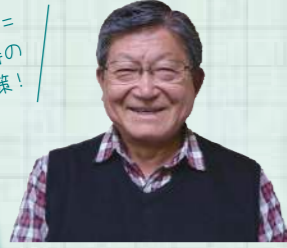
2030 SDGsゲーム

▼活躍塾 修了生

岩瀬自治会(神田会長)

「明るく楽しいみんなの岩瀬」「首都直下型大震災に備えての絆づくり」がモットー。多くのイベントやサークル活動を通じて自治会員どうしが顔見知りとなり、いざというときに自然と手を差し伸べあう関係づくりこそが大災害時の防災対策と考えている。

絆づくり＝
大災害時の
防災対策！



岩瀬自治会は2015年より松戸市の通所型「元気応援くらぶ」に登録し、岩瀬自治会集会所(通称：いわぼんホール)と隣接する岩瀬住吉公園を通いの場、居場所として提供しています。サポセンとは長年にわたり交流があり、サポセンが実施している活躍塾の塾生が実地体験をする場、また夏休み期間中に学生がボランティア活動をする機会を提供しています。一方、活躍塾塾生やボランティア学生を受け入れることで、岩瀬自治会活動がより充実し活性化することとなり、サポセンと当自治会はお互いにwin-winの関係にあると言えます。



ラストサマーフェス(8月)

Let's体験!!
学生ボランティア
の様子



盆踊り(8月)



岩瀬文化祭(11月)



岩瀬まつり(9月)

地縁団体

高橋亮さん

- ★こがねはら子ども食堂、まつど子ども食堂の会、千葉県子ども食堂連絡会 各代表(2016年～)
- ★松戸市子どもの学習支援事業の2教室の運営(2017年～)
- ★とうかつ草の根フードバンク：TKF 事務局長(2019年～)
- ★NPO法人 Matsudo 子どもの未来へ with us 代表理事(2020年～)

子ども食堂活動の
原点にて



こがねはら子ども食堂の立上げ間もない2016年6月、サポセン主催の「よろず相談～子ども食堂のはじめかた～」に講師として招かれたことから関わりが始まりました。その半年後には、サポセンの伴走で市内の子ども食堂主催のシンポジウムが実現、それをきっかけに「まつど子ども食堂の会」が生まれ、当時5か所だった子ども食堂も今では25か所以上に増え、ゆるやかにつながりお互い助け合って活動を続けることができています。他にも活躍塾の修了生やサポセンつながりで知り合った人々が、現在自分の活動全てに関わっています。そのことで、各団体が有機的につながり、更に活動が広がって、子どもをとりまく様々な環境を変えていこうという動きがあちこちで生まれています。思いのある人々が手をつなぐことで、私が目指す「子どもにやさしいまちづくり」への原動力となっていくのではないかと、確信しています。振り返ると、サポセンは情報と人材の交差点であり市民活動の新しい価値を生み出し続ける場でした。今後もその役割を期待します。



子どもの学びを見守る



まつど子ども食堂の会(ネットワーク)



こがねはら子ども食堂

いつもにぎやか!

ネットワーク団体運営

井坂千穂さん

活躍塾3期生(2019年)、2児の母。サポセンで働く傍ら、「地域で子どもが知っている大人を増やす」ことを目的に、子ども食堂、PTA活動、学童の父母会、マンションのコミュニティ活動に参加。月に一度ゴミ拾いをする「またまつどごみゼロくらぶ」を2022年に立ち上げた。



ゴミ拾いを通じて、
つながり&健康&
安心な街づくり!



またまつどごみゼロくらぶ

以前の職場を退職して活躍塾に参加したのがサポセンとの出会いであり、市民活動との出会いでした。「まつどみらいカイギ」にもプレゼンターとして出て、「手芸ができるコミュニティカフェを作りたい」というプレゼンをしたのですが、3年を経て、活躍塾のOGと一緒に、はなしまみんなでごはん(子ども食堂)で、「クラフトひろば」という形で実現しています。地域で活動しながらサポセンに勤務することで、地域のニーズや課題を肌で感じたり、つながりが年々広がって自分の住む地域にも還元できていますと実感しています。サポセンで働く人たちも特色豊かでいつも刺激をもらっていますが、松戸市民の皆さんの多さにもいつも驚かされています。



クラフトひろば



活躍塾 修了生

Let's体験!! 経験者



重松育実さん(右)：明治大学2年生/
夏のボランティア体験講座 Let's体験!!、
大人のためのボランティア体験参加者

中島真仁さん(左)：高校3年生/
任意団体 strawberry 代表

【重松さん】Let's体験!!へ参加し、受入れ団体だった始澤さん(松戸セントラルパークキーパーズ)が「絵が上手だから、文集作ってみたら？」と声をかけてくれて、当時の友達と一緒に「ふりかえり文集※」の作成メンバーに参加したのがきっかけです。サポセンに来る中で「今度こんなことするんだけど来ない？」と誘われることも多くて。つながりができたり、あまり接点のない活動にも参加できた。いい意味でめっちゃ巻き込んでくれる場所(笑)。大人ボラに参加した時は、市民活動を知ってもらうには?ということに興味があったので、「まつどでつながるプロジェクト」の広報活動の現場を体験できたことが貴重な体験になりました。自分の受験期間中には交流サロンを使って勉強して、サポセンは顔見知りの人とおしゃべりする場でもあります。

※ふりかえり文集…Let's体験!!の参加者や受入れ団体の活動の様子を有志でまとめた冊子。



みらいフェスタ

高校生だって、
実行委員!

イベント出展
も経験



文集仲間でみらいフェスタに出展

【中島さん】中3のときに学校でチラシを見て、受験で役に立つと思ってLet's体験!!に参加しました。その時は青少年会館の活動等、8団体くらい参加しました。これがそもその原点で、参加しなければボランティア自体も、活動もたくさんあることも知らなかったし、地域の色々な世代の人との人脈も広がらなかったと思う。その後、みらいフェスタの実行委員になり、イベントの企画力と、自分ができることを広げられたと思います。活動を通して、学生だけでイベントを企画・運営したくて、団体を立ち上げました。受験もあり、今は活動が停滞していますが、来年以降からまた再開していきたいなと思っています。サポセンは何かしたいなって思ったときに、その思いの割合に応じて活動先を探してくれる良い相談先ですね。

ユース

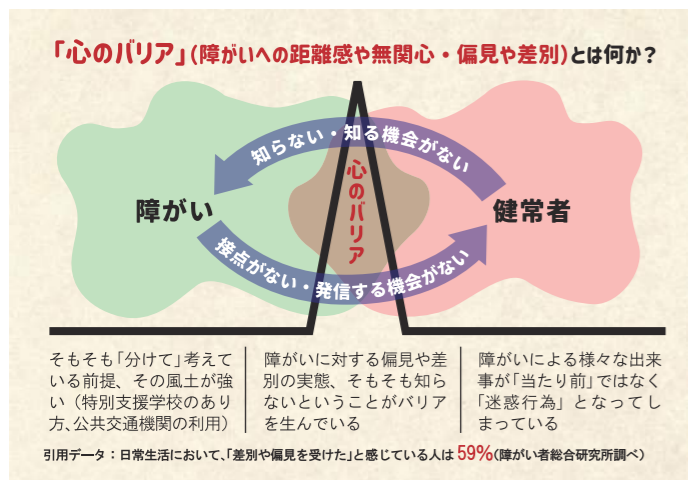


市民活動に関わる人の輪が広がるために 何ができるのか&必要なのか

サポセンでは、これからの社会でより市民活動に関わる人の輪が広がるために
何ができるのか、何が必要なのかを調べる調査プロジェクトを行いました。
コーディネーターを中心に5つのテーマを設定し、大学生インターンと一緒に情報収集・分析をしました。
今後、5つのテーマだけでなく幅広く、かつそれぞれの分野について専門的な視点も持ちながら
松戸の市民活動の活性化に寄与してきたいと思ひます。



高齢者チームでは、「社会的に孤立する高齢者が増えているのではないか」というテーマで調査を行いました。
問題解決のアプローチとして、「生きがいや社会参加の向上を通じて『自らの価値観の再構築』が有効」という仮説を立て、いかにしてそれが実現できるかについて考えました。
高齢期に向けて(高齢期を迎えて)市民活動への参加がまずは必要なアクションであり、そのために市民活動の持続性や価値の周知が、サポセンの役割だと学び機会となりました。



このチームでは「心のバリアフリー」をテーマとして、実態の調査や当事者へのヒアリングを行いました。その中で課題として挙げたのは「そもそも障がいについて知る機会がない」「幼少期からお互いに接点を持つことが少ない」といったことでした。そのため、障がいに対して意図していなくても距離感が生まれているのではないのでしょうか?サポセンとしては、形だけではない「共に生きる」ことの市民への発信や、当事者や家族が参加しやすい工夫に取り組んでいきたいと思います。



まつど市民活動サポートセンターへの期待

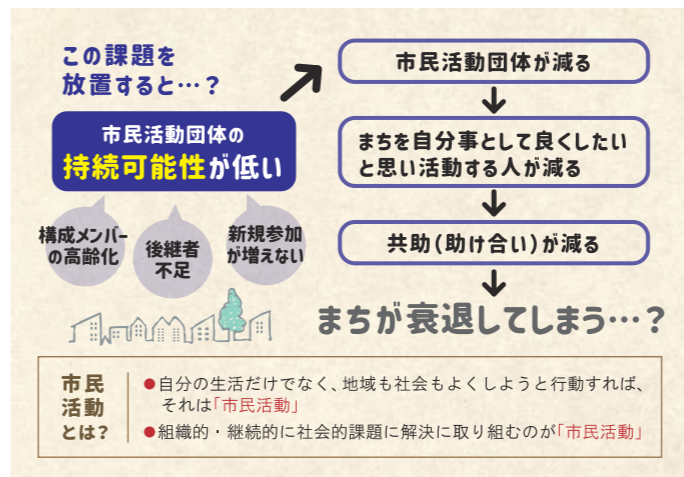
よく地域活性化にとって必要な人材として「よそ者、バカ者、若者」と言われますが、いずれも既存の枠組みに捉われず斬新なアイデアを出せる人材だから必要なのです。ところが、「若者」は既存のしがらみに捉われない一方で、圧倒的な経験不足から実行力が伴わないことが多いです。その点で、まつど市民活動サポートセンターには、インターンとして調査プロジェクトに千葉商科大学政策情報学部を学生を受け入れていただくなど、経験を積む機会をいただいています。地方公務員をはじめ実行力を持って地域で輝ける人材を今後も輩出していくために、「サポセン」との連携には大いに期待しています。

千葉商科大学
政策情報学部
学部長・教授
朽木 量さん

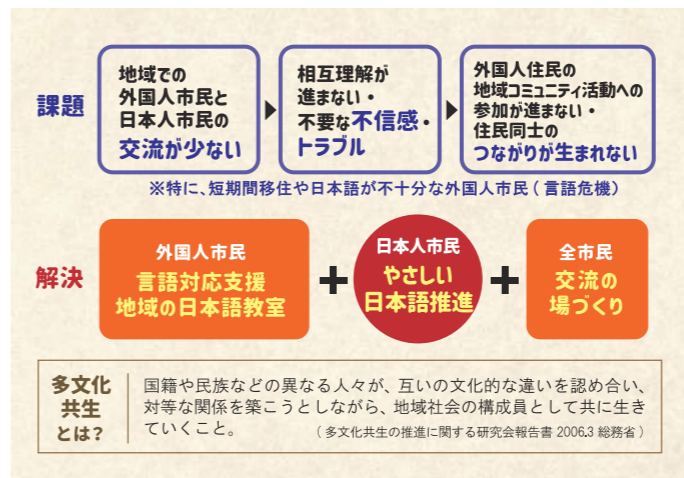


市民活動に関わる人の輪が広がるために 何ができるのか&必要なのか

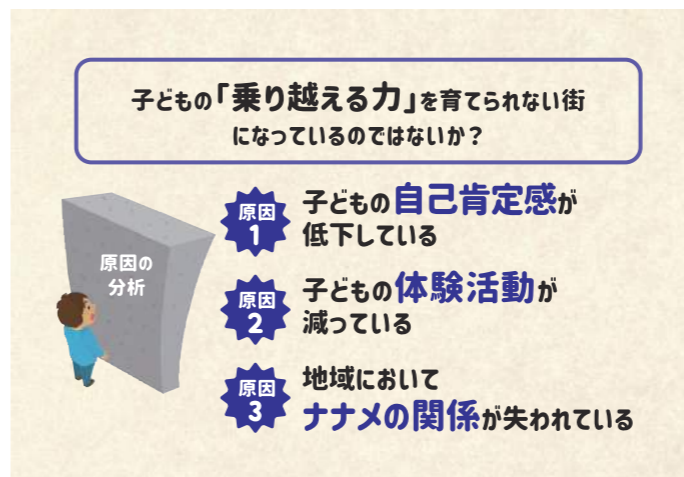
サポセンでは、これからの社会でより市民活動に関わる人の輪が広がるために
何ができるのか、何が必要なのかを調べる調査プロジェクトを行いました。
コーディネーターを中心に5つのテーマを設定し、大学生インターンと一緒に情報収集・分析をしました。
今後、5つのテーマだけでなく幅広く、かつそれぞれの分野について専門的な視点も持ちながら
松戸の市民活動の活性化に寄与してきたいと思ひます。



「このままでは、市民活動団体の持続可能性が低くなっていくのではないかと」というテーマで調査を行いました。データは、主に内閣府のNPOホームページの「特定非営利活動法人に関する実態調査」と松戸市の「協働のまちづくりに関する意識調査報告書」から必要な統計を抜き出し、また全国のNPOや市民活動の事例なども集めました。テーマについての根拠を提示しその原因をあぶりだしましたが、その解決や解消方法は仮説の段階に留まりましたので、今後もサポセンで考察し続けていきます。



多文化共生チームでは、千葉県や松戸市の多文化共生に関するデータや国内での事例を調べた結果、「多文化共生社会の共通語としてのやさしい日本語の推進とともに、外国人住民と日本人住民との交流の場を増やしていくことが多文化共生社会実現への促進になるのではないか」という、課題解決へむけての提案をしました。サポセンでは、必要に応じてやさしい日本語でも対応をできるようにし、引き続き、外国にルーツを持つ方への支援や多文化交流に関わる団体のサポートをしていきます。



子どもチームでは、「子どもの『乗り越える力』を育てられない街になっているのではないかと」というテーマを掲げ、松戸市の子どもを取り巻く現状を調査しました。
子どもたちがみな、自分自身を素晴らしい存在だと感じ、将来が楽しみだと感じられるようになるために、サポセンではNPOや市民活動と地縁組織との連携により地域で子どもに関わる大人を増やしたり、子どもたちのアイデアを実現する機会や、子どもたちが自身が地域活動に貢献する機会もつくってほしいと思います。





サポセン事業紹介 2 Let's 体験!! 2022

夏恒例の10~20代を対象としたボランティア体験講座。今年20年目を迎えました！今年は新型コロナ発生以来、2年ぶりに再開したオリエンテーションとふりかえりの会をLet's 経験者が中心となり企画し、開催しました。



松戸里やま応援団 樹人の会

ボランティア体験講座
Let's 体験!! 2022 実施概要

- ◆オリエンテーション・マッチングの会：7/18(祝・月)
- ◆活動期間：7/19(火)~8/31(水) ※一部例外あり
- ◆受入団体数：42 ◆プログラム数：50 ◆参加者数：231名



チームで作った「ボランティアの心得10か条」



密にならないように二部制でマッチング



YouTubeをモチーフに「いいね！」し合い体験のふりかえり！

コーディネーター紹介

上段 得意な分野/特にこの分野はお任せ！
下段 好きなこと/一言

石川 紗樹

子どもと大人の文化芸術体験イベントの企画・開催、生きづらさを感じている子どもとママのサポート、市民活動×政治・選挙

イベント開催後などの打ち上げ飲み会、山や森の自然、音楽(ピアノとビオラ、ウクレレ)、舞台鑑賞、料理。皆さんとの関わりで、自らも勉強させていただいてます！

山崎 恵 副センター長

団体の立上げ相談、活動をすすめるロードマップづくり、会計、総務的は事務力支援/環境関連活動、子ども食堂立上げ、フードバンク

自然なものが、自然な姿でそこにあるのが好き/自分の想いを自然に表現できて、無理なく活動できる場を作っていくことに興味があるし、心がけています。

小熊 浩典 副センター長

NPO法人・一般社団法人の設計~設立~運営/定款・事務・NPO会計基準の会計処理/子ども・ユース主体の活動支援

NPOの法人の設立・運営を、自身の失敗談や経験も含めてお伝えします。しっかり相談したい方、予定調整の上、相談対応にきっちりいたします。NPO法人の理事・事務局・監事の方、ぜひ情報交換しましょう。

大石 果菜

学生・ユースの地域活動の支援/広報物のデザイン/グラフィックレコーディング

地域で面白い活動がしたい!...というユースとまちの人のワクワクする取組が好きでこの業界に飛び込みました。普段は普通にオタクです。映画やアニメ・アート・お酒系色々お話ししましょう!

井坂 千穂

イベントや講座の企画運営/子ども食堂/PTA・学童・交通安全・防犯活動/マンションコミュニティ運営

おいしいものと純米酒が大好き! 制約(資金や時間、ルールなど)のある中でどうしたら実現できるか?を考えるのが好きです。



齋藤 久代

サステナビリティのための教育/多様性/多文化共生/バーカールチャー/ごみゼロ

異文化交流・アート全般・自然の中でぼーっとすることが好きです。誰もが好きな時に、好きな場所で生きている世界になったらいいなあ~、と思いながら生活しています!

阿部 剛 センター長

何もない所から、想いをカタチにするお手伝い/子ども、若者の力を引き出す社会教育、ユースワーク/非営利活動のコミュニティマネジメント・資金調達の仕組みづくり

とにかくいつも新しいことにチャレンジすること! (※ファミレスでは同じ商品を頼みません! 笑)

齋藤 和輝

市民団体のIT活用のサポートやクラウドファンディング関連の相談を主に受けています。あとはやたらとアクの強い企画を作りたい時はご相談ください。

博物館標本の活用をテーマにした法人をしています。松戸のイベントで骨を展示していたらたぶん僕らの法人! いつもと違った変わったことを始めたい時はご相談ください。みんなの知らない業界の話ができます。

松村 大地

理学療法士の経験や知識を活かし、医療介護・地域福祉などに活かすこと/イベント企画や運営のバックアップ/コミュニティ運営や場づくりのノウハウ提供

医療福祉に限らず多分野に興味があります!(なかでも子育て、教育分野、アートデザインなど)、壁打ち相手としていつでもどうぞ!



サポセン事業紹介 1 まつどみらいカイギプロジェクト

まつどみらいカイギは、「松戸でこんなことを実現したい!」という想いをを持ったプレゼンターの発表をきっかけに、参加者の皆さんや市民活動団体などで楽しみながら松戸の新しい暮らしや地域のことについて話ができるイベント。みらいカイギ後に、実現に向けて動き出したプロジェクトを、サポセンが一年間サポートしています。今では25か所以上になっている松戸の子ども食堂のネットワークである、まつど子ども食堂の会も、現在も活発に活動しているまつどSDGsノウエンも、ここからスタートしました。

大人も子どもも楽しめる! コミュニケーションスキルが身に付くカードゲームが作りたい!

目を見る・相槌を打つ・話を「聴く」...普段何気なく行っているけれど、人間関係を築くうえで大事なコミュニケーションスキルについて、誰でも楽しみながら身につくカードゲームの完成を目指して1年間活動しました。「楽しめるカードゲームって何だろう?」と市販のゲームを体験するところから開始し、実際にシリアスゲームを作っている団体へのヒアリング等も重ねて、メンバー皆で一歩ずつ前に進んできたこの1年間。試作したカードは何と1734枚にも上りました。1年間の活動の締めくくりとして試作品の体験会も実施することができ、今後も完成に向けて取り組んでいきます。



コロナ禍で学校行事がつぶれた小・中学生に楽しいイベントをまつどで!

2年近く(2021年12月時点)、新型コロナウイルス感染症対策の影響で小中学校の運動会や修学旅行などの行事が中止や延期となり、子どもたちの楽しい体験の機会が奪われていることから、自分たちで出来ることでその機会を作りたいと話し合いを重ね、誰でもすぐにルールが分かり参加しやすい、ソフトボールでのキックベースの会を8月に実施しました。ゲームをする前にはプチクイズ大会も行いアイスブレイク。集まった小中学生に高校生ボランティアや大人たちも交じり、楽しくゲームしてもらえました。



まつどでゼロウェイストをめざそう!



▲ゴミ拾い活動のアドバイザー



▲上映会(野菊野こども館)

松戸市内を中心に、ごみの発生を削減し、循環型社会を目指す仲間づくりと啓発活動を目的として、「まつどゼロウェイスト」を立ち上げました。

- 活動実績
- SNS上で、ゼロウェイストにつながる情報発信・意見交換
 - 生ごみ堆肥化コンポスト講習会実施
 - 夏休みに「マイクロプラスチックストーリー」オンライン(2回)・リアル(3会場)上映会開催
 - 松戸市新リサイクルセンター見学
 - 松戸市消費生活展への参加

今後もゼロウェイストの暮らしを広めるプラットフォームとして活動を継続していきます。



食糧分かち合い×フードロス削減=SDGs実現!! コミュニティ自販機を設置しよう!

「コミュニティ冷蔵庫」というフードロス削減や困窮者支援を目的とした、誰でも使える冷蔵庫を設置する取り組みが国内外であります。このプロジェクトでは、そのデメリットといえる犯罪や衛生面の懸念に対応可能な「コミュニティ自販機」を地域で実現しようと始めました。

話し合いと合わせて、横浜の実践者へのヒアリング、資金調達に関して財団との面談、設置の候補地や自販機の選定を進めてきました。現在は食糧調達方法や誰のためにどのように届けるかなど、さらなる検討を重ねています。

コミュニティ自販機とは?
電源不要のコインロッカー式
(野菜などで見られる)

- 誰でも使える、という面を残しながら、想定される「犯罪」「衛生」「独占」等の懸念に対応
- 自販機側面のスペース、食品を入れた袋などを通じて対面の支援/交流に繋げる



自分の個性が輝く街に!

松戸市に住む海外ルーツを持つ子どもたちの居場所を作ることを目的とし、海外ルーツ・多文化共生について知る・触れ合う機会を地域に作り出す活動を行いました。



松戸市に住む海外ルーツの人達と料理教室

スポーツで異文化交流(ストリートサッカーで盛り上がりました)



Let's体験!!を通じて「多文化共生」ワークショップ(元外交官・中国出身のお母さん・海外ルーツをもつ代表の小山さん3人の話を聞き、レゴブロックで学んだことを表現)



市民活動で 「コスパの良い暮らし」 広がっています

私が市民活動に関わり始めて15年ほどですが、この間にもいろんな出来事や変化がありました。大学生だった頃はNPOの呼び方すら知られていなかったり、同世代にボランティアしているなんて話したら変な目で見られることがほとんどでした。その後3・11東日本大震災を機に、最近ではSDGsをはじめ小学生も社会課題を口にする時代に。だぶ世の中の反応も変わってきたと感じています。

サポセンのセンター長を担わせていただいでから約8年。とにかく幅広い世代に市民活動を身近なものにしていきたいと奮闘してきましたが、少しずつその芽が増え、伸びてきたかなと実感するようになりました。本紙でもコメントをいただいている方々は一例ですが、何気ないきっかけから活動を始めたり、同じ関心を持つ人と出会いコミュニティが生まれたりしています。

とは言え、まだまだ多くの人にとっては市民活動と言っても縁遠い存在です。そこで最近は地域活動に関わることで「コスパの良い暮らし」ができるのではと皆さんに伝え始めています。「コスパ」というのはコストパフォーマンスの略ですが、ジムに行かなくても近くの公園で体操やウォーキングができたり、都内まで遊園地に行かなくても里山で自然体験ができたり。そこで参加するだけではなく、ちょっと運営を手伝うとお土産までもらえたりする。そんな暮らしの楽しみ方が市民活動にはあるのではないのでしょうか？

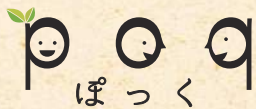


運営してきた8年間の最初の4年間は「萌芽」とするならば、この4年間は「生長」と言えます。この次には「開花・結実」につなげていけるよう、これからも皆さまと共に運営していきたいと思ひます。



まつど市民活動サポートセンター
センター長・コーディネーター
阿部 剛

サポセンニュースレター



第29号 (2022年 雪灯号)

発行日: 2022年 12月 31日
(※年 4回発行)
発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつど NPO協議会)

「ぼっく」の主な設置場所 松戸市内の図書館、市民センター、公民館など各種公共施設の他、松戸駅などに設置しています。

「ぼっく」設置協力店

- Sampo Café (八ヶ崎 7丁目)
- 子育てつながるセンター co-no-mi (本町 13-27)
- 松戸観光案内所 (本町 7-3)
- やしま商店 (本町 6-3)
- 隠居屋 IN kyo-Ya (南花島中町 196)
- はれの日サロン (常盤平 3-11-1 西友常盤平店 5階)
- いわぼんホール (岩瀬 38)
- さんさん カフェ (仲井町 2-6-4)
- omusubi 不動産 (総台 1-21-1 あかぎハイツ 112)
- Coworking Space Flat Café & Bar (新松戸 3-289)
- 昭和セレモニー松戸・矢切・北小金儀式殿 (千駄堀 620-1・栗山 19-4・殿平 75-2)
- 松戸スタートアップオフィス (松戸 1307-1 松戸ビル 13F)
- みんなの居場所そらいろ House ふらここ (五香 4-53-1-101)
- まちかどアトリエ Neiro (松戸 1117 ビラ松濤 2F C号室)

「ぼっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します!

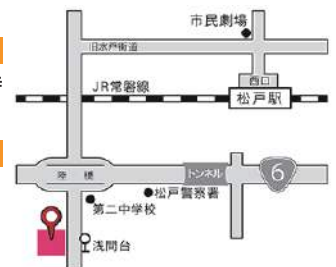
ニュースレター「ぼっく」を、お店や施設に配架していただけませんか? ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。

まつど市民活動サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1 (総合福祉会館内)
TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636
E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com
URL: <http://www.matsudo-sc.com/>
facebook: <https://www.facebook.com/matsudo.sc>

開館時間
月～土: 9時～21時
日: 9時～17時

休館日
第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設利用に制限がある場合があります。詳細はサポセンホームページをご覧ください。